



魚沼市では6月中旬に梅雨入りしました。今年は降水量が少なく梅雨らしくないものの気温は平年並みに推移し、稲の初期生育は順調です。

農家さんは魚沼米憲章の基、朝早くから草刈りを行い、日中の暑さの中でも、<sup>はんでんまい</sup>“斑点米”の原因となるカメムシを本田に入れないように畔の草刈りを行っています。

7月は田んぼの水管理がとても重要な時期です。

水を抜き、根を健康に保つため「中干し」を行い、十分に酸素を吸いこんだ田んぼでは、稲の中に小さい穂ができます。この稲の赤ちゃんを大事に育てるため、しっかりと水管理を行います。



幼穂 ようすい

稲は田植え時に入れた肥料をどんどん吸って生長します。田んぼの中の栄養分は稲に吸われ少なくなるので、田んぼに肥料を追加します。これが<sup>ほごえ</sup>“穂肥”と言われる作業で、穂が出るまでに2回に分けて行います。

農家さんは自分の稲姿を見て生育診断を行ってから肥料の散布時期と量を決めます。

各地で行われる「あぜ道研修会」に参加し、定期的に発行される稲作情報、携帯メール情報を参考に、今までの経験を活かし健全な稲の管理を行います。

この肥料の散布時期と量がピッタリと合った稲は、最高の品質と良食味を持った魚沼産コシヒカリになります。

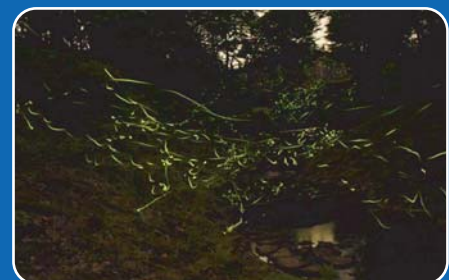
農家さんはおいしいお米をつくるため今日も米づくりに励みます。



あぜ道研修会の様子

この時期、市内の水路付近や池などでは蛍を見ることができます。蛍はきれいな水がないと見られません。

魚沼では農薬を最小限に、田んぼにいる生物や環境に配慮した農作業に務めています。これからも蛍の舞う自然にやさしい農業を目指し、いつまでも蛍の光が輝き続ける魚沼でありたいです。



### 精米センター受付時間のご案内

「平日」は8時30分から17時30分まで。「土・日・祝日」の発送及び電話受付はお休みとさせていただきます。ご迷惑をお掛けしますがご理解をお願い致します。

